

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「麦作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第3号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00323270/index.html にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
1月	4	5.0	4.5	-0.5	9.7	9.6	-0.1	0.7	-0.8	-1.5	9.9	0.0	0	18.0	28.4	158
	5	4.8	7.0	2.2	9.5	11.3	1.8	0.4	1.9	1.5	10.0	42.0	420	18.7	17.3	93
	6	4.8	7.0	2.2	9.7	12.2	2.5	0.3	2.9	2.6	11.9	0.0	0	24.2	22.4	93
2月	1	5.0	4.4	-0.6	10.1	8.9	-1.2	0.4	0.5	0.1	9.5	0.0	0	21.2	17.3	82
	2	5.4			10.6			0.7			9.9			21.8		
	3	6.0			11.2			1.1			11.3			22.3		
	4	6.5			11.9			1.6			12.8			23.4		
	5	7.2			12.6			2.1			13.7			24.4		
	6	7.7			13.1			2.6			8.8			14.7		

- ・ 1月5半旬以降の平均気温は、平年より2 程度高く推移した。
- ・ これまで少雨傾向であったが、1月23日にまとまった雨が降った（42mm）。

2. 生育概況

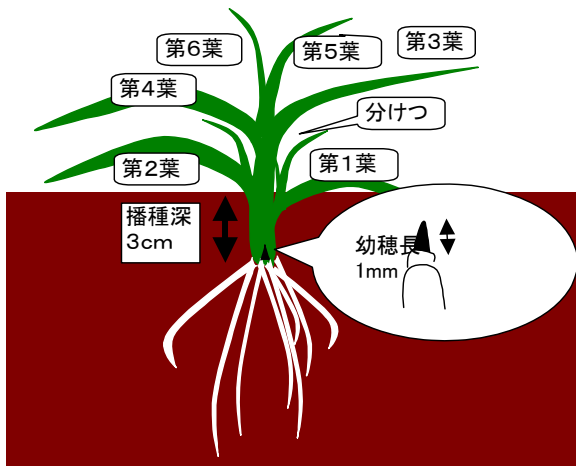
- ・ 11月中下旬播種されたものは、2月10日現在大麦、小麦ともに5.5～6葉期で幼穂形成期を迎えている。
- ・ 12月初旬播種されたものは、大麦、小麦ともに4.5～5.5葉となっており、有効分げつ決定期となっている。
- ・ 12月中下旬播種されたものは、現在、2.0～2.5葉となっており早いもので分げつ始期となっている。

参考 情報田調査 2月9日調査日

耕種概要は麦作情報第1号参照

品種名	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉令 L	葉色 SPAD	備考
シロガネコムギ 11月28日播種	11.8	258	4.8	44.7	・ 本葉5葉目が展開中 ・ 1～2葉分げつ発生
はる風ふわり 11月20日播種	11.7	496	6.5	50.1	・ 本葉6葉目が展開中 ・ 幼穂長1mm程度 ・ 幼穂形成始期 2/9頃
サチホゴールド 12月1日播種	12.2	606	5.9	46.2	・ 本葉6葉目が展開中 ・ 幼穂長1mm程度 ・ 幼穂形成始期 2/9頃
はるか二条 12月1日播種	12.0	796	5.3	44.1	・ 本葉5葉目が展開中 ・ 幼穂長0.8mm程度 ・ 幼穂形成始期 2/10頃
ユメサキボシ 11月16日播種	17.1	612	6.7	42.7	・ 本葉6～7葉目が展開中 ・ 幼穂長2mm程度、節間長5mm程度 ・ 節間伸長期 2/10頃

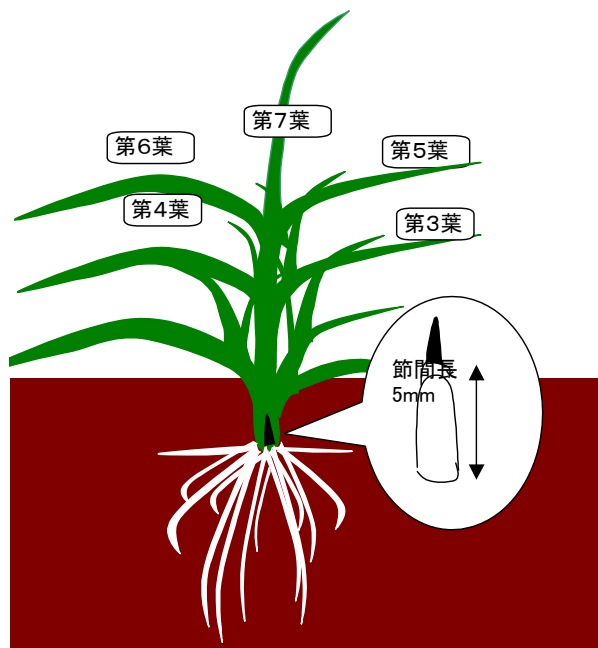
麦類の生育ステージ



幼穂形成期

幼穂形成期

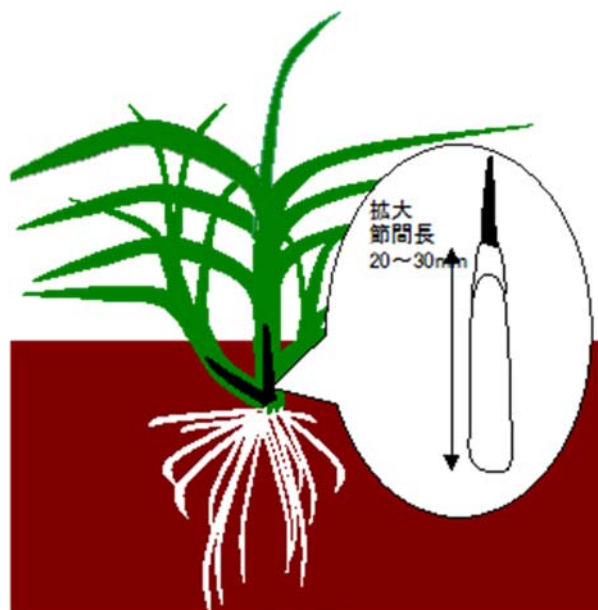
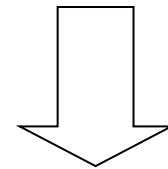
幼穂の長さが1mmとなったとき。
幼穂は地下部に存在する。
葉令は5～6葉期。



節間伸長期

節間伸長期

下位節が伸長し、幼穂が地下部近くに上がってくる。節間長が5mmとなったとき。
麦踏みの晩限が近づいてきている。
葉令は6～7葉期。
草丈は、20～25cm程度



茎立期

茎立期

節間伸長期から2週間程度経過したときで節間長が20～30mmとなり、幼穂が地上部に上がってきたとき。
この時期になると麦踏みはできない。
幼穂凍死の危険性が高くなる。
茎立ちが早いときは、幼穂保護のために土入れを実施する。
草丈は、30cm程度

3 . 今後の管理

- ・ 今後の管理としては、降雨による湿害を防ぐため、畝間を整備し表面排水を促すことと、生育に応じて麦踏・土入れをこまめに行う。

(1) 排水対策

- ・ 根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）を枕部分まで通すなどして、排水溝の整備を入念に行う。麦類の発根力は最高分げつ期から節間伸長期（おおむね7～8葉期ころ）が最も高いとされている。今後の根の活性維持のためにも排水対策は重要な作業である。



湿害による下葉の黄化
（まくら地や停滞水した箇所が発生）

(2) 肥培管理

- ・ 11月下旬播種された小麦や大粒大麦の穂肥は、適期の施用ができる。2月下旬から3月極初旬に定量を施用する。
なお、茎立期を過ぎた場合は、麦踏みを行いながらの施肥は避けて動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。
- ・ 穂肥施用後は、肥効を高めるために土入れを行うとより効果的である。

(参考) シロガネコムギ出穂期予想 (九州沖縄農業研究センターHP) 参照

播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2021年11月15日	2月17日	4月8日	4月22日	5月25日
(平年値)	(2月19日)	(4月8日)	(4月22日)	(5月26日)
2021年11月20日	2月25日	4月10日	4月24日	5月27日
(平年値)	(2月25日)	(4月10日)	(4月23日)	(5月27日)
2021年11月25日	3月2日	4月13日	4月25日	5月29日
(平年値)	(3月2日)	(4月13日)	(4月25日)	(5月29日)
2021年11月30日	3月7日	4月15日	4月27日	5月30日
(平年値)	(3月7日)	(4月15日)	(4月27日)	(5月30日)
2021年12月1日	3月8日	4月15日	4月27日	5月30日
(平年値)	(3月8日)	(4月15日)	(4月27日)	(5月30日)
2021年12月10日	3月15日	4月19日	4月29日	6月1日
(平年値)	(3月15日)	(4月18日)	(4月29日)	(6月1日)
2021年12月15日	3月18日	4月20日	4月30日	6月2日
(平年値)	(3月18日)	(4月20日)	(4月30日)	(6月2日)
2021年12月20日	3月21日	4月21日	5月1日	6月3日
(平年値)	(3月20日)	(4月21日)	(5月1日)	(6月2日)

予測に用いた気温は、2022年2月8日までは観測値、2月23日までは予報値、その後は平年値。

参考 HP http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

(3) 麦踏み・土入れの実施

・**麦踏み**は3葉期～節間伸長期(草丈25cm程度まで)に4～5回程度行う。ただし、土壌水分が高い状態で行うと、土を踏み固まり根の働きが悪くなるので、**土壌が乾燥した状態(畦間が白乾している状態)**で行う。**土壌が乾燥条件になれば、麦踏み作業は10日間～2週間の間隔で実施する。**

茎立ち期以降は、茎折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

・**土入れ**は本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

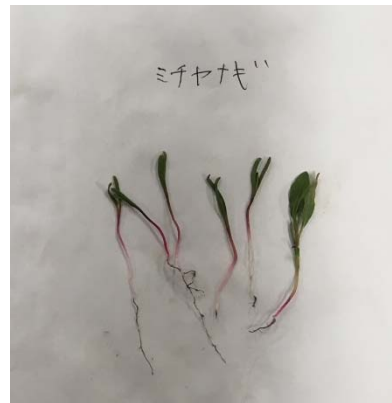
分けつ初期に土入れの量が多いと、分けつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育に応じて土入れの量を増やしていくことを基本とする。

麦踏みの効果：①耐寒性の増加 ②根の伸長促進 ③早立ち防止による凍霜害回避 など
本葉3葉期～節間伸長期(草丈25cm程度)までに4～5回程度行う

土入れの効果：①防寒 ②倒伏防止 ③無効分けつの抑制 ④雑草防除 ⑤表面排水など
本葉5葉期～茎立ち期(草丈30cm程度)までに3回程度行う

(4) 雑草防除

・近年、ミチヤナギなどタデ科の雑草が増加している。播種直後剤(土壌処理剤)のみでは十分に抑えることができない可能性があるため、生育期処理剤との体系処理を行う。



< カズノコグサ と スズメノテッポウ の識別法 >

・「種子の形」や「根の色」で識別できる。

カズノコグサは「白色」で、

スズメノテッポウは「赤褐色」をしている。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



・カズノコグサ対策は、まず圃場の乾田化を図ること。
播種直後処理剤とカズノコグサが1～3葉期までに「ハーモニー75DF 水和剤」との体系処理を行う。

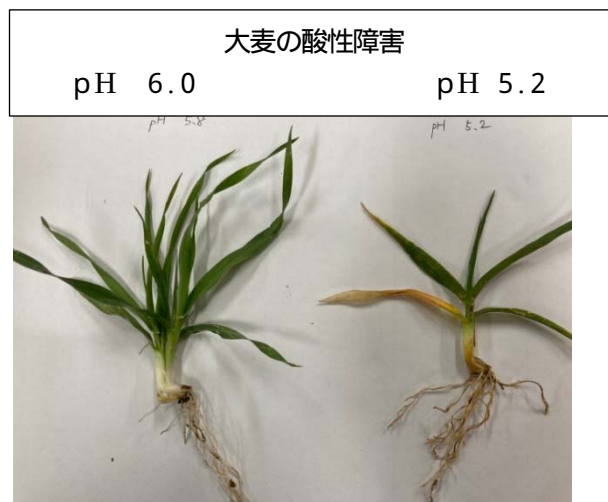
・**除草剤散布後は、以下のことに注意する**

「**麦踏み**」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいので控える。また、除草剤散布直前に麦踏みをすると茎葉が痛み、薬害を生じる場合がある。

「**土入れ**」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

(5) 大麦の酸性障害

- ・大麦の酸性障害は、下葉の黄化と生育遅延が症状としてみられる。
- 発生した圃場については、土壤pH測定を行い、次年度以降定期的に播種前に石灰資材を施用する。酸性による黄化が発生した場合、石灰資材60～100kg/10aを表層施用する方法もあるが、土壤表層施用のみのため、根障害改善につながらず効果はあまり期待できない。



(6) 鳥獣害対策(カモによる食害)

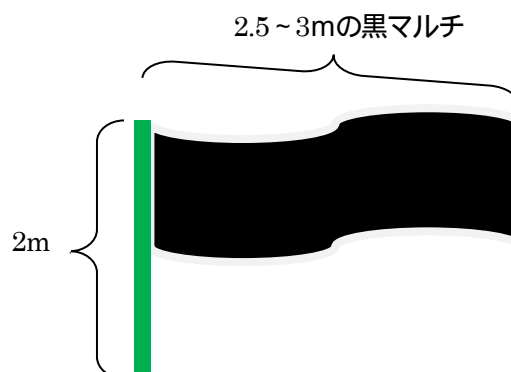
- ・右の写真のような被害がみられたら「カモ」による食害である。
- 麦の地際部まで草刈機ではらったように切れている
- 周辺に鳥のふんが落ちている。
- ・カモ対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの対策が効果があると言われている。



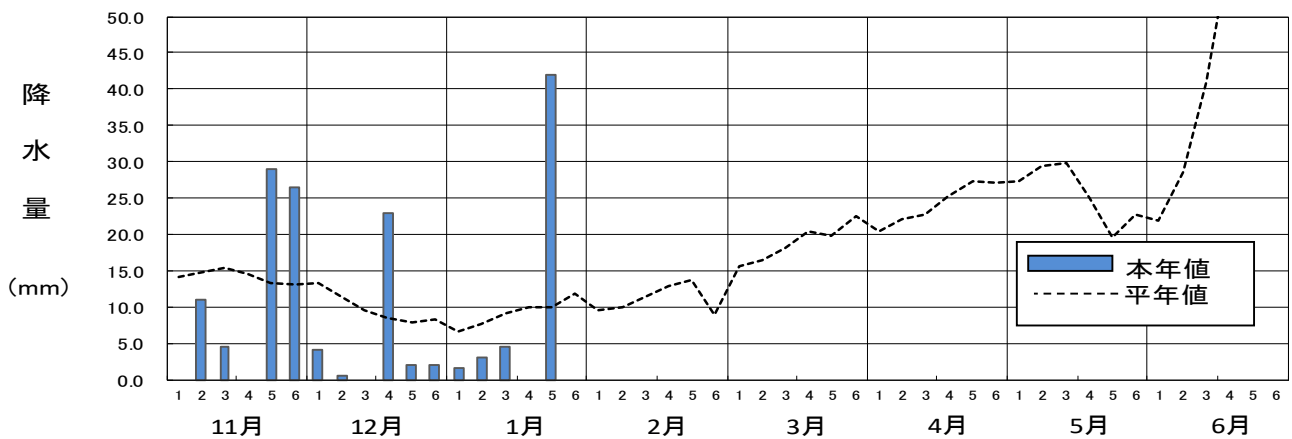
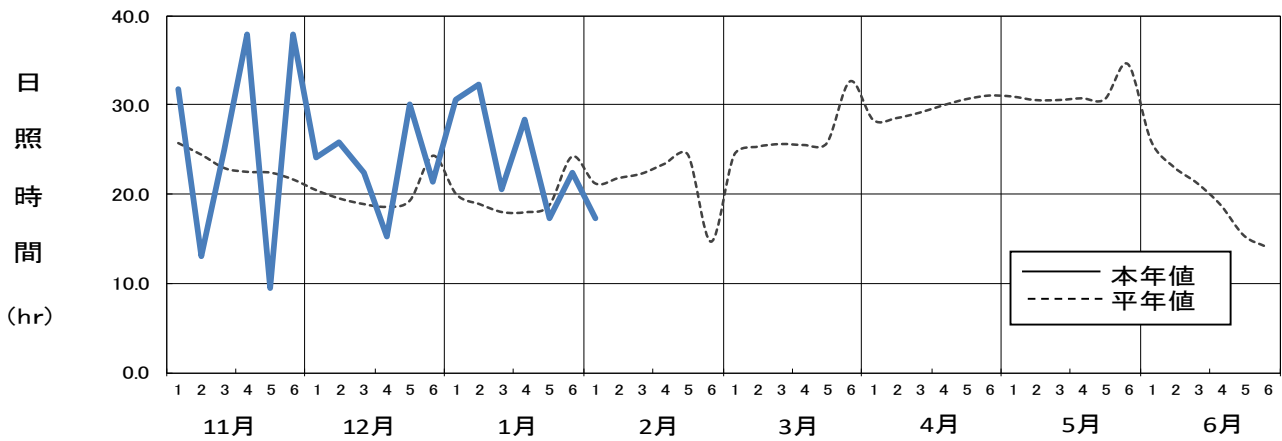
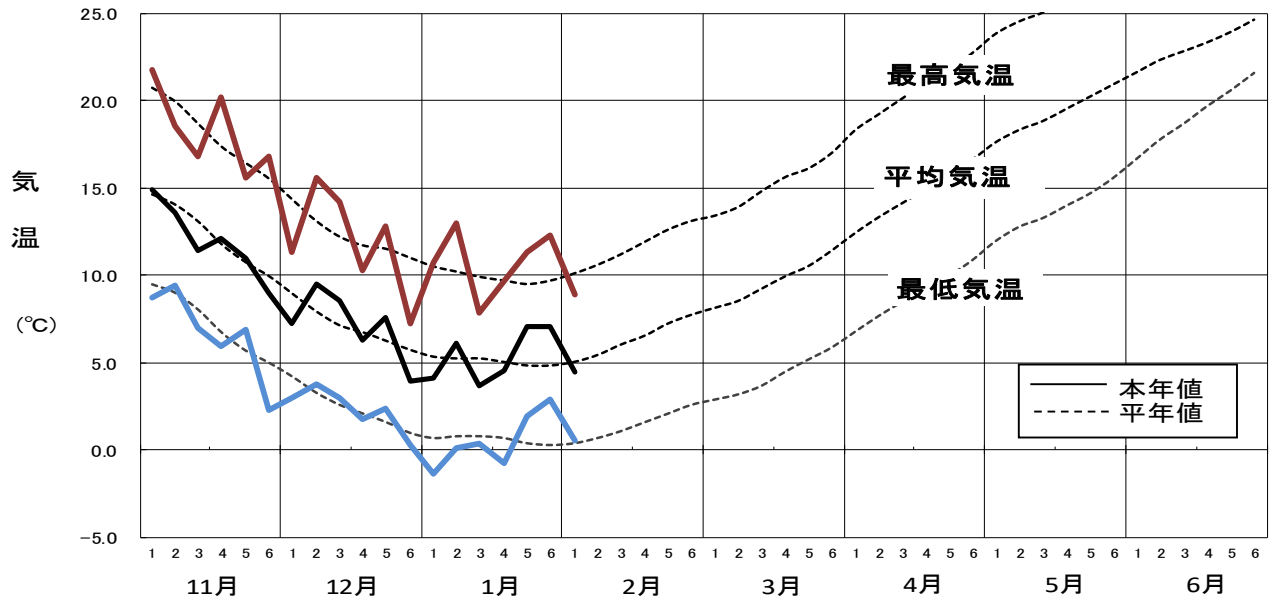
～「のぼり」の設置方法～

- ・2mの支柱に、2.5～3.0mの黒色のマルチをつるした「のぼり」を、
- ・10aあたり5本均等に設置する。

「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減します。



令和4年産 麦類作付期間気象図
アメダス観測値(白石)



月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
11月	12.3	12.0	-0.3	18.1	18.3	0.2	7.3	6.7	-0.6	86	71	83	140	155	111
12月	7.0	7.1	0.1	12.2	11.9	-0.3	2.4	2.2	-0.2	59	32	53	121	139	115
1月	5.0	5.4	0.4	9.9	10.8	0.9	0.6	0.5	-0.1	54	51	95	117	161	137

※平年値:1991~2020